

日野の伝統文化を継承する

先人から受け継がれてきた日野町の伝統文化。そのなかに「ホイノボリ」と「日野祭囃子」があります。どちらも後継者を育てることが難しくなっています。町の誇りでもある伝統文化を守り、次の世代へ引き継いでいこうとする人々の思いが今、動き出しています。

ホイノボリ



▲ホイ作り講習会
(10月13日／林業センター)

日野町には、春を代表する祭りにホイノボリの祭り（日野のホイノボリ／県選択無形文化財）があります。この祭は、白やピンクの紙花を多数付けた「ホイ」と呼ばれる竹ひごを、心棒となる竹に傘を広げたように取り付けたノボリを奉納する祭の総称で、4月上旬から5月上旬にかけて日枝神社（南山王宮）など7つの神社で行われます。

長年、このホイ製作を担っておられた加賀爪幸雄さん（中之郷）が今



▲日枝神社（南山王宮）のホイノボリ

年、高齢のため引退されました。今後のホイノボリ存続を懸念し、その伝統技法を習得することを目的に、10月13日（土）、林業センターにおいて、加賀爪さんを講師に迎え「ホイ作り講習会」を開催しました。

各神社の氏子を中心に約100名の方が参加され、そのホイ製作の伝統技法を間近に見て、作成方法や材料となる竹の選び方などについて熱心に意見を交わされました。加賀爪さんの作成技法を見た後、参加者は、「カタセン」という専用の道具を用い、実際にホイを製作されました。ホイ作りの伝承は、その技術を絶やさず、地域で受け継がれていくことでしよう。

日野祭囃子



▲文化協会交流研修会で、祭囃子を披露される日野祭囃子交流会の皆さん（9月30日／わたむきホール虹）

目が減っていき、演奏しなくなり曲名のみが残っている曲もあります。「このままでは祭囃子が無くなってしまう」と危機感を抱いた囃子方が集まり、今年6月に「日野祭囃子交流会」（中村幸太郎会長）が結成されました。

町内ごとに囃子の曲やリズムはいろいろで、笛の吹き方や太鼓のバチさばきひとつをとっても違います。交流会の皆さんは、「レベルの高い祭囃子を後世に伝えたい」という思いで活動されています。メンバーは、「囃子は演奏しないと無くなってしまふ。今なら耳に残っている」と、各町内から曲を集め、CDなどに録音して残そうと計画されています。

毎年5月3日に行われる日野祭は、800年以上の歴史を誇る馬見岡綿向神社の例祭です。町内16基の曳山が、華やかに通りを進みます。その曳山から美しい音色を響かせる囃子は、祭りを一層盛り上げてくれる欠かせない存在です。今、この祭囃子の存続が危ぶまれています。楽譜といったものがなく、人から人へ伝承されてきた祭囃子は、曳山を持つ各町内で独自の曲が演奏されています。継承の過程で、徐々に曲



▲演奏前夜、9町内から11名が集まり、熱心に練習されていました